



第27号(平成19年3月発行)
東海ノア協定事務局
(原子力機構・原子力科学研究所内)
Telephone: 029-282-5801
E-mail: t-noah@jaea.go.jp

東海ノア通信 第27号 をお届けします。

東海ノアでは「平成18年度年間基本活動計画」に基づく活動を展開しております。本号は、東海ノアの日頃の活動を紹介するとともに、情報の共有化のための記事も紹介しております。

東海ノア協定に基づく活動状況は、適宜、ホームページでも紹介しています。

アドレスは、<http://tnoah.tokai-sc.jaea.go.jp/> です。

トピックス

☆活動状況

- ・ 活動推進幹事会、安全協力委員会の開催状況
- ・ 自主保安に関する点検協力活動
- ・ 安全教育に関する協力活動
- ・ 情報交換に関する協力活動
- ・ 緊急時に対応するための協力活動

☆加盟事業所からの事業所紹介

☆委員、幹事の交代について

☆今後の活動予定

東海 NOAH:

東海村(東海)、那珂市(N)、大洗町(O)、旧旭村(A) … 現銚田市、ひたちなか市(H)

☆活動状況

安全協力委員会、活動推進幹事会の開催状況

○第16回安全協力委員会

開催日：平成19年3月14日（水）

開催場所：原子力機構 東海研究開発センター 原子力科学研究所

主な議題：

- (1) 平成18年度の活動状況について
- (2) 平成19年度年間活動基本計画について



○第37回活動推進幹事会

開催日：平成19年2月28日（水）

開催場所：原子力機構 東海研究開発センター 原子力科学研究所

主な議題：

- (1) 平成18年度第3回自主保安に係る点検協力活動の実施結果について
- (2) 東海ノア通信第27号の発行について
- (3) 平成19年度年間活動基本計画について
- (4) 平成18年度総合訓練の実施結果について
- (5) 平成18年度第2回安全教育の実施結果について
- (6) 平成18年度活動状況について



自主保安に関する協力活動

協定に加盟している事業所を対象に、原子炉主任技術者、放射線取扱主任者、核燃料取扱主任者、衛生管理者、防火管理者等の実務経験のある専門家を派遣し、安全管理について様々な観点から確認、意見交換を行い、事業所の安全管理の向上に役立てるための活動を行っています。

自主保安に係る点検協力活動の実施状況は、次のとおりです。

○平成18年度 第3回自主保安に係る点検協力活動

(1)実施日 平成19年1月23日(火)

(2)事業所名 原子力機構 大洗研究開発センター

(3)点検協力者 3名

- ・防火管理者 (所属：原子燃料工業株式会社 東海事業所)
- ・核燃料取扱主務者 (所属：核物質管理センター 東海保障措置センター)
- ・放射線取扱主任者 (所属：日揮株式会社 技術研究所)

(4)点検項目

①安全管理	④水平展開
②規定規則等	⑤緊急時の対応
③教育訓練	⑥現場の巡視確認



事業所の対応者（左側）
と意見交換を行う点検協
力者（右側）



施設の説明を受ける点検
協力実施者

○平成19年度 第1回自主保安に係る点検協力活動

第1回目の点検協力活動は、第一化学薬品株式会社 薬物動態研究所を対象に、7月頃の実施を予定しています。

安全教育に関する協力活動

○平成18年度 第2回安全教育研修

今年度第2回安全教育研修が、平成19年2月2日（金）に日本原子力発電株式会社 総合研修センターにおいて開催されました。

5事業所より5名が参加し、放射線及び放射能濃度の測定と、原子力発電所の運転体験を行いました。

特に、小型シュミレータを使った運転体験研修では、参加者から「普段体験できないことなので、とても有意義だった」、「わかりやすく貴重な体験だった。また参加したい」等の感想がありました。



小型シュミレータによる
原子炉の運転体験



グループ実習

- ・放射線及び放射能濃度の測定実習

○平成19年度 第1回安全教育研修

平成19年度第1回目の研修は、11月に、原子力機構 原子力研修センターにて開催を予定しています。

情報交換に関する協力活動

○トラブル情報の交換

- ・原子力機構 原子力科学研究所

大強度陽子加速器施設 物質・生命科学実験施設における火災について
(2月22日プレス発表)

○防災訓練等の見学

- (1) 原子力機構 核燃料サイクル工学研究所

3月13日(火)に、「緊急被ばく医療に関する契約書」に基づく非常事態訓練が行われ、加盟事業所から3名が見学に参加しました。

今回の参加者は、同事業所の対策本部室の見学は初めてということもあって、設備や連絡体制、外部との対応方法等についての質問を行い、参考になったとの感想がありました。



現地対策本部の様子



負傷者搬出の様子

緊急時に対応するための協力活動

○東海ノア総合訓練

平成 19 年 1 月 24 日に、原子燃料工業株式会社 東海事業所を発災想定事業所とした総合訓練を実施し、通報連絡者を含め 93 名が参加しました。

今回の訓練では、加盟事業所への通報連絡訓練に加え、加盟事業所の協力活動本部員が原子力科学研究所へ入構する際に、実際に本部員証と身分証の提示を求め、本部員であることを確認しました。

協力活動本部へ集結後は、発災事業所へ本部員を派遣する際の手続きに重点をおいた訓練を行いました。

訓練終了後の反省会では、活動本部員から、担当する活動内容や手続き等をもう少しわかりやすくして欲しいとの意見があり、次年度の訓練に反映することで、訓練を終えました。

☆加盟事業所からの事業所紹介

『安全への取り組みについて』

日揮株式会社 技術研究所

日揮株式会社は 1928 年に創業し、これまでアジア、中近東、アフリカ、南米、東欧など世界約 70 カ国、2 万件以上にもおよぶプロジェクトを遂行してきた総合エンジニアリング会社です。

日揮の事業は、石油・ガス・石油化学といったハイドロカーボン分野はもとより、一般産業・社会分野では、医薬品工場、食品工場、研究施設、医療・福祉施設、社会・商業施設、各種産業プラント、環境保全施設など、幅広い領域におよびます。

日揮技術研究所では、これらの活動を支援・発展させるため、常に次代を見据えた、独自のプロセス技術、要素技術などの技術開発を行っています。

例えば、天然ガスやバイオマスを原料とする環境にやさしいクリーンエネルギーの開発、二酸化炭素吸収技術の開発などに取り組んでいます。技術開発は、安全を最優先に実施しています。具体的には、新規実験・開発を着手する前に作業安全の妥当性などを「安全衛生委員会」で審議します。安全対策に不備があった場合は、開発行為の見直しを指示します。さらに所内のパトロールを定期的の実施し、安全衛生に関する改善と安全水準の向上に努めています。

近年、プラント業界ではHSE（Health, Safety and Environment）活動の重要性が言われ始めており、私たちの取り組みはそれを先取りしたものだといえるでしょう。

これからも『無災害』こそわが研究所の普遍のテーマであると考えております。

以上

☆委員、幹事の交代について

安全協力委員会並びに活動推進幹事会のメンバーが交代となりました。

新たに委員、幹事となられた方は、次のとおりです。

（敬称略）

（1）安全協力委員会 委員

・ 原子力機構核燃料サイクル工学研究所

所長

野村 茂雄 （1月より）

（2）活動推進幹事会 幹事

・ 原子力機構核燃料サイクル工学研究所

保安管理部長

林 直美 （1月より）

☆今後の活動予定

- ・ 第38回 活動推進幹事会・・・・・・・・・・・・・・ 5月
- ・ 平成19年度 東海ノア通報連絡訓練・・・・・・・・・・・・ 5月
- ・ 平成19年度 茨城県通報連絡訓練・・・・・・・・・・・・ 6月～
（通報連絡対象機関として参加予定）
- ・ 平成19年度 第1回自主保安に係る点検協力活動・・・・・・・・ 7月

編集後記

東海ノアの活動につきましては、日頃より加盟事業所の皆様方のご理解・ご協力をいただき感謝いたしております。

1月に実施した東海ノア総合訓練には、加盟事業所より多数の方に参加して頂きました。訓練後に行った反省会での貴重なご意見は、次年度の訓練に反映させていきたいと考えております。

また、次年度の活動に資するため、加盟事業所を対象として自主保安点検協力活動、緊急時対応訓練につきましては、アンケートの結果を踏まえた素案を作成いたしました。

今年度も残り僅かとなりましたが、事務局では、今後も引き続き東海ノアの活動について、加盟事業所のご協力を頂きながら改善を図ってきたいと考えております。

東海ノアに関するご意見、ご要望等がございましたら、事務局までお寄せください。
(東海ノア協定事務局)



東海ノア通信

記事の中で、「日本原子力研究開発機構」は「原子力機構」と略称で記載しております。